

3 悩みのコーナー

悩みのコーナー

活動団体がどのような悩みを抱えておられるのかお聞きしました。

活動に起因する固有の悩みから共通する悩みまで、どの団体もさまざまな悩みを抱えながら活動されていることがよくわかりました。活動が進めば、また新たな悩みが出てくることもわかりました。記述の中にあっただのですが、悩むからこそ解決策が見えてくるというのは真理だと思います。それぞれの団体が、一つひとつ悩みを乗り越えて、一回りも二回りも活動を充実していかれるものと期待しています。

行政としてもこういった悩みや課題をどう支援できるのか考えていきたいと思っています。

人材確保

〈活動の協力者が増えない〉

どこの団体も同じかもしれませんが、同じ活動を続けていくには人材が大変不足しています。人材育成は難しく、ロコミでお願いするのですが、なかなか受けてくれなくて困っています。どのような方法がベターなのか答えが出ず、頭が痛いです。

〈メンバーの増強〉

歴史講座や歴史ウォークにはたくさんの方が集まり、歴史に興味を持つ中高齢者が多いように思いますが、なぜか主催側にはなりたがりません。メンバー増強が課題です。

〈社会貢献したい人が活動できる道を模索〉

人手不足です。
子育てを終了したり、停年退職後にボランティアで社会貢献したい人はたくさんいるはずですが、男女を問わずしっかり学んでもらって、彼らのパワーを生かして活動を継続させる道を模索しているところです。

〈給与が低いため、よい人材が確保しにくい〉

一般の企業に比べ、給与が安く、助成金や補助金ベースでの事業が大半なので、長期的なよい人材確保が難しい。

〈若い人材が確保しにくい〉

若者に経営のバトタッチをしたいと考えていますが、人材の確保が難しいのが現状です。

〈活動の拡大に合わせ、人材確保〉

活動が拡大する中で人材確保が課題となっています。

〈専門家の確保〉

心理学に精通した支援者を常駐にして活動を活発化させたいが、できない。就労支援に役立つような行政や企業、地域の物心両面の支援がほしい。

〈人材育成のためのプログラム受講や専門家によるフォローの体制づくり〉

専門職相談員としての段階に合わせた育成プログラムが必要です。
虐待対応等で緊迫した場面での対応もあり、リスクが大きい。また、相談員のメンタル面のフォローは欠かせない。必要時にカウンセリングやスーパーバイズを受けるなど体制を整えたい。

高齢化

〈メンバーの高齢化〉

メンバーが団塊世代中心であり、組織の世代引き継ぎを可能にするため、年齢層の拡大が必要です。

〈ボランティアの高齢化〉

ボランティア参加者の高齢化が進み、若年ボランティアへのシフトが円滑に進んでいません。

〈ボランティアの高齢化〉

ボランティアの高齢化に悩んでいました。当団体のボランティアの平均年齢は55歳。若いスタッフは雇用するしかありませんが、経済的な保障ができないので無理です。財政難はいつまでたっても解消できないので、発想を転換して、高齢者は時間もお金もあるし、元気な人も多いたろうので、彼らを中心とした活動でいいと思うことにしました。少し気が楽になりました。

〈高齢化でできる作業が限られる〉

高齢化で作業の負担が厳しくなってきましたが、皆で工夫して手間のかからない花壇へと植物の種類や地盤整備を考えています。
また、会員がインターネットやホームページ等ができないので困っています。

〈若い人と高齢者のコミュニケーションがとりにくい〉

いろいろな世代の人に関わってもらいたいのですが、若い人と高齢者とのコミュニケーションが図りにくい状況です。会員は高齢化しており、一方、若い人の参加は少ない。
若い人も一緒になっていろいろなアイデアを持ち込んでいきたい。また、他の県民交流広場との連携を図りたいと考えています。

〈新会員が増えない〉

会の将来を考えるとメンバーの高齢化が心配です(現在平均60歳を超えています)。高齢化による退会はありますが、ここ10年、会員がほとんど増えません。
解決策として、さまざまな機会を利用して、チラシや口頭での勧誘、事業への参加者への声掛けをしています。しかし、まったく効果がありません。

〈若い人を呼び込みたい〉

余暇時間がないとは思いますが、なんとか若い人を増やしていきたい。

資 金

〈どの内容で我慢するのか〉

資金不足に悩んでいます。
よいことをすればするほど赤字では、事業を継続できません。どの内容で辛抱するかが課題です。寄付金もまだまだ理解いただけず、思うように集まっていません。
しかし、文化ボランティアは自分が楽しみながら、社会貢献もできるため、ボランティアで参加いただいた人からは、ぜひまた参加したいとの手紙がたくさん届いています。

〈イベントをしたいが資金不足〉

大きなイベントをしようとする、どうしても資金が不足してしまいます。
イベント会場(広場)が山の頂上にあるため、なかなか島の人たち、特に高齢者、子どもの参加が少なくなります。対策として、専用のワゴン車でも有れば送迎して来てもらうことができるのに・・・と毎年話をしていきます。数少ない島のイベントに1人でも多くの高齢者に来てもらい、楽しませてあげたい思いでいっぱいです。

〈活動資金をどう確保するか〉

活動資金をどう確保するかが悩みです。
活動拠点として古民家を借りることができたのですが、そのままでは使えない所も多く、修繕費用も必要です。今はいただいた助成金と会員からの会費とで運営していますが、今後、助成金を受けられなくなる可能性もあり、これ以上の会費の増額も難しいので、資金の確保を今後どのようにしていくか検討が必要です。

〈有志の拠出金で活動をするも不満が〉

各種活動を行うと資金が不足し、有志の拠出金を仰いで活動を行っていますが、不満が出る状況です。

〈活動資金が調達できない〉

いつまでも活動を続けたいのですが、資金的な裏づけが足りません。
今後の活動を縮小することなく継続するため、実績を分析しながら資金の調達方法を検討し、一部実行していますが、それでも最大70%の資金調達にとどまっています。
行政に助成をお願いする予定ですが、行政も財政状況が厳しく、新たな助成はおろか、今までの助成も縮小、または廃止される懸念があります。
コピー用紙一枚からコストダウンを図っていますが、効果的な成果を期待するのは難しい状況です。
今後とも、町に対し、“当広場の特性と必要性”をアピールして、助成獲得に結び付けたいと考えています。



〈資金の自己調達分をどのように確保するか〉

活動資金を得ることが大きな課題です。

いろいろなことをやってみたい若者は多くいますが、資金がないために、ためらいがちなのもたくさんいます。資金さえあれば、本当に多くのことができるのに、残念な思いが大きいです。助成金を確保して…というアイデアもありますが、通常、助成金も自分たちで半分以上出せて始めて、企画を助成してくれるものが多いので、何よりもスポンサー探しが課題です。

何か収益事業を始めてみようか…とも考えています。それによって収入を得て、ボランティアの生活も安定させ、その上での活動でないと行きづまりやすいと思います。

〈自主財源の確保〉

自主財源になる事業が乏しく、事務所の家賃や人件費の捻出に苦慮しています。事務局は、土日は助成金の申請に明け暮れており、年度末はその報告に明け暮れています。助成金頼みの活動は不安定であり、長期的な活動プランが立てにくく、人を正規雇用することも出来ません。

〈経常経費の負担が大きい〉

活動拠点の維持を代表者に依存してコミュニティ支援事業をしていますが、毎月の家賃や管理費の捻出、人材確保に悩んでいます。県のコンサルタント3名に指導をいただきました。公的機関を活用されているグループは家賃も安価ですが、我々は、音響設備等の費用の捻出や家賃の高さに苦しい思いをしています。

解決策として、空き時間を活用すべく追手門学院大学のビジネス事業に協力しましたが、相手方の都合で事業の継続ができませんでした。

〈人件費の捻出と会費負担の限界〉

活動費に係る補助制度は各種ありますが、それをコーディネートする事務局の人件費(雇用経費)に充当する補助制度がありません。現在、市の制度により年額180万円分の人件費はありますが、それ以外は住民からの会費で賄っている状況です。

活動が活発化すればするほど事務局機能の充実が必要となり、住民は自らのことに返ってくることで会費で負担していくという考え方なのですが、高齢化が深刻化していくほど会費の負担増も今後難しくなっていくことが想定されます。

事務局の役割が少なく済む活動方法を見いだしていく一方で、人件費が捻出できるコミュニティビジネスの確立をめざしていかなければならず、活動の持続性に不安を感じているところもあります。

〈人件費の捻出〉

人件費の捻出が悩みです。さまざまな支援金をいただいても、行政の支援金はすべて人件費(スタッフにかかる費用)は出ません。毎年祭りの収益金やバザーでその部分をカバーしていますが大変です。せめて年間の半分だけでも出ないかと毎年期待してはがっかりの繰り返しです。

〈イベント時の飲料費はカンパで〉

夏季のイベント時等に必要な飲み物に助成金が使えず、開催する側にカンパなどの資金援助をお願いするしかないのですが、毎回毎回お願いもできず悩んでいます。

〈思うような助成金を得られない〉

当会の活動に見合った助成金もいろいろあるのですが、申請書や報告書の作成にかなりの労を費やすため、なかなか思うような助成金を得られないでいます。皆さんはどのようにして助成金を得ておられるのでしょうか。

〈安定的な資金源を確保したい〉

年中助成先を探していなければならず、事業の継続性を支える資金源の長期展望が描けません。

〈人件費に助成はない〉

継続的な運営を行うための財源確保が問題です。特に、人件費に助成がないのは大きな問題です。

〈資金は会費のみ〉

資金が家族の会費のみに頼っているため、いろいろな企画がイメージとしてあってもなかなか実施できない。

〈資金回収リスクの発生〉

資金面の負担が大きくなっており、今後、資金回収リスクが発生すると思います。



運営体制

〈責任はだれにあるのか〉

以前は、代表一人が“責任”の意味を取り違えて行動していました。そこで、メンバー各自が持つ力を発揮できる場づくりをめざすことにしました。

観光・防災・景観の3つのグループを設置して各リーダーを設けるとともに、定期イベントの開催時に受付・会場設置・司会進行・誘導など担当リーダーを設けました。そうすることで各自が責任と持力を十分に発揮する体制が取れるようになりました。

〈スタッフのやる気をそがないように〉

一人がなんでもやっしまい、他のスタッフのやる気をそいでしまわないように業務を分配することが大切です。それぞれのスタッフがアイデアを出してやりがいを引き出す工夫が大事です。

〈団体のミッションをどのようにして伝えるか〉

団体ができてから15年近くたち、どんどん変わっていくメンバーに対して、団体がめざしているミッション(社会的使命)を伝え切れていないことに悩んでいます。

団体を立ち上げたメンバーのほとんどは、現在は活動していませんし、団体が継続していくことを考えると、立ち上げメンバーが直接伝える以外の方法を考えていくが必要になってきています。かといって書面で伝えていくことにも限界があり、なかなか仕組みとして解決していく方法が思いつきません。

〈増加する仕事量とスタッフの負担のバランス〉

積極的に外に出て、いろいろなイベントに参加するように心がけてきた結果、お誘いや依頼も増えて、忙しくなっています。うれしいことである半面、活動量が障がいのあるスタッフの体力を超えていないか、障がいのないスタッフの仕事が過重になっていないか、心配です。

〈事務局機能の確保〉

自立に向けて、チラシの配布や助成金獲得のための書類作成といった事務局機能をどうするかなどが課題です。

〈事務作業の負担〉

事務作業が特定の人の負担になっています。

〈事務作業の負担〉

元来苦手な事務作業が、日々の作業の煩雑さにかまけて、ますます追いつかなくなっています。このままでは、夏休みの宿題の「ためこみラストスパート状態」に陥りそうです。

〈頻繁に集会できない〉

全県のネットワークのため、頻繁に集まることができない状況です。

〈事務担当者の育成〉

助成金応募書類の提出や出金の頻度が高いこと、また成果報告書の作成を嫌い、事務後継者が育ちません。

〈運営費についての考え方が各自異なる〉

悩みといえば、内部での運営費に対する考え方の差でしょうか。

ほとんどの人が、PTA、地域団体の関係者であり、会費での運営を想定しているようです。西宮市の施設の指定管理を受けること、NPO法人格を取る必要性について、具体的に相談相手となるのは1~2名という現状です。公募により頭となる専門性を持ったNPOの立ち上げが急務です。



活動の展開

〈地域に根付いた活動にしたい〉

商店街の中にある施設で事業を行っていますが、今のところ商店街の人の参画が残念ながらありません。また、保護者も子どもの送り迎えだけで、事業に参画される人はほとんどいません。もっと、地域に根付いたものにすることが今後の課題です。

〈講座受講生をNPO活動につなげたい〉

当協会の講座修了生は5年間で400名近くになりますが、その人たちをNPO活動に上手に繋げていくことができていないように思います。講座が終了したらそれで関係が終わるのではなく、何らかの形でNPO活動に参加できるような方法を今後は考えていかなければならないと考えています。

〈行政でないとできない役割を果たしてほしい〉

会員数が増加すると、施設や利用時間の問題が生じます。また、新規事業ができなくなると、会員の固定化を生み、衰退していく可能性が大きくなります。このようなことから、スポーツクラブ間同志の交流や情報、他地区クラブ員の受け入れ等、行政の役割を考えてほしい。

〈事業のマンネリ化を避けたい〉

活動の多くは地味な作業・労役のため、継続していくために楽しみの要素を加えていますが、活動のマンネリ化によって住民が飽きてしまわないか心配です。みんなが同じように楽しむことができる活動をと考えると、どうしても活動の枠を広げることができず、頭を抱えています。

〈活動の限界を感じる〉

地域の歴史資料を平日9:00～5:00まで誰でも閲覧でき、案内できる体制を整えています。また、展示会や解説会なども企画し、実施しています。このような活動を通じて、地域の歴史に興味を持ってもらいたいと考えていますが、限界を感じています。

〈継続性か一過性かの選択〉

長期にわたる継続性のある行事展開か、イベント性の行事か、つまり、長期展望の上に毎年継続して積み上げた成果を求めるのか、一度限りの成果を求めるのか、選択に迷います。

〈どこまで躰の指導をするか〉

子どもの躰(しつけ)について、子どもが気軽に施設内の備品等を使うのは大いに結構なのですが、後片付けをしなかったり、あいさつをしないで帰ったりしているときには注意するようにしています。部屋に上がる時は履物を揃えるように躰けていますが、その度に注意しないとできない子がほとんどです。せめて、ひろばへ来たときぐらいいリラックスさせてやりたいとの気持ちはありますが、目に余るときは厳しく注意しています。

〈どこまで関わるか〉

子育て支援活動の中でどこまで親子に関わったらよいか、躰(しつけ)をすべきか不安です。

〈どのようにして活動を理解してもらうか〉

「高齢になって身体が悪くなくても旅行に行けるのだ」ということをご存じないシニアやシルバーが多くいらっしゃいます。しかし、私たちが実践しているように、解決策はすでにあるのです。諦めてしまっている人にどのように「行ける」ことを理解いただくか、それが課題です。

〈段階的に課題を克服〉

障害者の皆さんとの共同作業に取り組み始めました。かつては苦手であった草刈機の操作は、経験を積むことで克服しました。次の段階として管理機の使いこなしに挑戦しています。

〈他地域へどのような活動ができるか〉

私たちが対応できる地域は自ずと決まってきました。しかし、テレビや新聞をご覧になり、遠方の方からも旅行に行きたいという要望を数多く受け取っています。そのような他の地域に対して私たちがすることも考えていく必要があります。

〈危険を避ける工夫〉

実習室が大人向けの場所なので、小さい児童には調理台が高すぎることで、包丁が大きいことが危険と思われました。そこで、昨年度は子ども基金の助成を受け、子ども専用の包丁が購入でき、問題の一つは解決できました。調理台に関しては、踏み台を使用するのも危険かと、目下思案中です。

活動拠点

〈賃貸料が負担となり活動拠点が確保できない〉

現在の事務所は個人宅なので、自由が利きません。活動拠点がほしいのですが、家賃や光熱費を捻出しようとすると事業が実施できなくなってしまいます。無料で貸していただける施設があればと日々悩んでいます。かといってNPOにするのは無理な状況です。メンバーが全員仕事をリタイアする年齢になったら可能なのかなと思います。

〈賃貸料が負担となり活動拠点が確保できない〉

家賃を払う資金がなく、活動の中心となる固有の事務所がないことが最大の悩み。外部との連絡、メンバー間のコミュニケーションを図るためにも必要です。

〈財政難で事務所を拡張できない〉

事務所が手狭です。2DKなのでスタッフのいる場所がなく、通路で事務をとっている状況です。もう一部屋ほしいのですが、財政難で無理です。スタッフのストレスが高くなるのは職場環境のせいもあります。

〈財政難で事務所を拡張できない〉

集まる人が多くなり、スタッフが車いすで動くには、普通より広いスペースを必要とするので、今の事務所が段々手狭になってきています。今後、事務局を仕事の場として充実させ仲間を増やしていくには、もう少し広い場所を確保したいと思っていますが、資金の問題で具体化できていません。

〈広い活動空間がほしい〉

活動柄、青少年が思いっきり活動できる広い空間があれば、もっと多様な活動が組めるのにと考えます。

〈条件に合う会場が見つからない〉

外国人と日本人が集まる会場を探しています。

外国人の日本語学習、日本人・外国人のティータイム、外国人への教え方の指導などを「にほんご交流サロン」で行っています。民間の会場では会場費が高く、公の施設では飲食ができず、また、会場を定期的に使えない(月ごとに申し込みが必要)など、安価で安定的に使えるところが見つかりません。

〈初めての人が入りやすいように〉

大人は施設の利用に際して、遠慮が先立つように思います。入り口の戸を開けていると、「外を通る人に見られるからイヤ」、戸を閉めていると「戸が閉まっているところに入りにくい」とのことなので、今は暖簾を掛けています。中の様子が気になっているようですが、地区内の人はどちらかといえば遠慮がちです。この点、地区外の人や子どもは気兼ねなしに入ってくる。

〈子どもの安全確保〉

活動場所は、ドアを開ければ、すぐ前が商店街のアーケードなので、子どもたちの安全面に常に気をつけてはいけません。今のところ事故はありませんが、危険なことはないか、安全に配慮できているか、もう少し検証する必要があります。

また、事業も2年目を迎え、継続して参加している子どもは慣れてしまい、注意を聞かなかつたり、走り回ることもあります。気の緩みがケガにつながることもあるので、緊張感や興味をどうやって持続させるかも今後の課題です。



地域の協力

〈住民のボランティア意識が希薄〉

地域のボランティア意識がまだまだ薄く、地域活動のきっかけづくりが難しい状況です。

〈活動の参加者が少ない〉

活動に参加している人は少数であり、もっと多くの人に参加していただきたい。

活動が拡充傾向にある中で、「活動はよいことであるが、できる人でやってほしい」と地区住民から言われ、少し悩んでいます。これが地区全体での活動になるよう、地区全戸に参加を呼びかけているところです。

〈行事への参加者が少ない〉

各部・広報紙等で行事への参加をお誘いするのですが、参加者が少なく、一生懸命お世話をしてくださっている役員さんのことを考えると申し訳なく思います。しかし、大きな災害が起きた時には、地域住民の助け合いが必要です。常日頃から行事に多くの参加者の輪がほしいです。

〈地域の参加者が限定的〉

将来を見据えて若い人に参画してほしいですが、時世柄、なかなか難しい。また、年配の人に広くに関心を持ってもらうことも難しい。地域外の人から喜んでいただいていることが地域活動の力となっていますが、活動に参加するボランティアは限られていて、もうひとつ地域の盛り上がりが足りません。

集客・広報活動

〈集客できない〉

毎年ライブを行っているのですが、どうしてもお客さんを集めることができません。クオリティの高い演奏をしている自信がありますが、どうすれば大勢のお客さんの前で披露することができるのか毎年悩んでいます。

ビラを配ったりもしましたが、思う効果が得られず、試行錯誤中です。

〈集客の方法〉

いつも難しいのは、イベントをするときの人集めです。前日まで、どのくらい来てくださるだろうと、毎回ドキドキしています。

宣伝は、ひたすらいろいろな人に声をかけること、広報や新聞、ラジオなどに取り上げていただいたこともあります。これが決定打というものは、まだありません。

〈メディアの取材効果はメリットとデメリットあり〉

メディアに取材してもらうとツアーの予約は増えますが、直前にキャンセルするお客様が多くて困ります。

〈広報のみで住民の協力を得ることは難しい〉

活動を広報しますが、無関心派と関心派に二分されます。自治会を通した回覧は、2割程度の人しか見ていません。活動に住民の協力を得ることは難しい。教育関係者を活動に巻き込みたいと思いますが、距離感があります。



行政との関係

〈行政は閉鎖的〉

行政との協働を申し入れても、新しいことはしないし、聞く耳も持ちません。職員の多くが閉鎖的で議論も結論も遅すぎます。

〈行政の連携先は固定的〉

行政の連携相手は、古くからある団体に限定されていることが多く、新しい団体はなかなか協働できないように感じます。行政がしなくてはならないけれど、できない部分をNPOは担っているのに、行政職員に匹敵する給与保証が必要だと思えます。

〈行政に協力しても受ける支援は限定的〉

市との関係が今ひとつです。

市はこども部管轄の「キッズパーク」をプレーパークと位置づけ、その活動を継続することしかしません。そこは子育て総合センターの屋外施設の位置づけで、職員も配置し、活動費も市の予算から出ています。

私たちがまったくのボランティアで始めた活動を10年前から知ってはいて、チラシを市の施設に置くなど協力しているとはいうものの、資金面の援助は一切ありません。いろいろと当会としては協力しているつもりですが、これだけは何ともならない状況です。

〈助成金申請・報告の事務処理負担が大きすぎる〉

事務局体制が個人の力量に左右されるため、専任事務担当者を雇用したり、賃金を予算化するのが一番ベストですが、現実的には協議会にはその財源はなく、ボランティアな個人の事務局担当者には、事業の展開(会議の案内・資料づくり等)、県・市の助成金申請・報告等の煩雑な事務処理が相当な負担となっています。そのため次の事務局担当者が見つかりません。

少しでも事務の簡素化、特に、報告事務の会計監査の団体委譲(団体の中で[目]となる個々の支出に対しては適正な監査業務)を行い、県・市には[款][項]での報告程度で済むようにしてほしいと願っています。いくら連携とはいえ、このような活動内容の報告要請には応じかねます。

その他

〈悩むからこそ解決できる〉

小さな地域だから、一人にかかる悩みは大きいですが、悩みは悩みではなく解決すべき課題ととらえています。悩みはチャンス、悩むから解決できるのです。自分の地域だから悩むことは楽しい。悩みにより、お互いに語るから明日が見えてきます。

